



# 羅針盤

明日はいま  
自分がつくるのだ  
(殷の湯王)

## いよいよ私立高校入試です

12日（金）に、私立高校入試事前指導を実施しました。担当の先生からの説明を真剣に聞いている姿を見ると、受験に向けての緊張感が高まってきたなど感じました。

来週からは、鹿児島県内の私立高校入試が始まります。ここまできたら、これまで頑張ってきた自分を信じて、万全の体調で受験に臨みましょう！

## 入試直前の最終確認を！！

### 【集合時間、欠席連絡について】

- 集合時間は、各高校で違います。引率の教員がつかない高校は、高校の集合時間の30分前には試験会場に着くようにしてください。

※ 特に問題がない場合、到着時に中学校へ連絡する必要はありません。

- 引率の教員がつく高校では、必ず先生の確認を受けてから、受験教室に入ってください（帰るときも同じです）。
- 当日、体調不良等で欠席する場合は、**中学校へ7:10～7:30の時間帯に連絡**してください。インフルエンザ等により欠席する場合は、後日受験が認められることがあります。

申請が必要なので、早めの連絡をお願いします。ただし、樟南高校は、試験日が土曜日であるため、高校へ直接連絡をお願いします。

- スクールバスが運行される高校については、乗車時刻に間に合うようにしてください。保護者送迎の場合は渋滞が予測されますので時間に余裕をもってください。
- 高校周辺の商業施設等での送迎は絶対に行わないでください。

### 【持って行く物について】

- 各高校の要項や受験票を見て、必要な物を確認してください。中学校指定のかばん（補助バッグ）に荷物は入れて行きましょう。

※ お弁当や上履き（または体育館シューズ）が必要な高校がありますので注意してください。

- 面接までの待ち時間がありますので、本などを準備しておくといいです。

### 【服装について】

- 制服を正しく着用してください。  
ネーム、組章がついていますか。  
男子はボタンがそろっていますか。ズボン丈は大丈夫ですか。ベルトはありますか。  
女子はリボンがついていますか。スカート丈は大丈夫ですか。
- 爪、髪の毛（寝ぐせや女子の顔の横にかかる髪）は清潔にしてください。
- 防寒はカイロ、インナーで調節してください。

### 【会場内での過ごし方について】

- トイレに行く以外は、自分の席で静かに過ごしましょう。友達と答え合わせをしても、不安になるだけです。耳に入っても気にしないことです。
- 困ったことがあったら、すぐに高校の先生に相談してください。

### 【試験終了後について】

- 真っ直ぐ自宅に帰りましょう（試験会場隣やバス停、駅などに高校の先生が補導に出ている場合があります）。
- 16:30までは自宅に待機してください。
- 受験報告書を記入し、次の登校日に提出してください。

事前指導でも話をしましたが、入試当日に一番大事なことは、受験生自身が入試会場にいることです。

忘れ物をしたら不安になるので、しないに越したことはありませんが、もし、忘れ物をして自分勝手に取りに帰って、皆さんが会場にいないことの方が、よっぽど困ります。必ず引率の先生に相談してください。

『私立高校入試心得』と合わせて、保護者と一緒に確認してください。

★ **がんばれ** ★  
★ **受験生!** ★

## 合格答案の書き方10か条

- 1 問題が配られたら、まず深呼吸！心を落ち着けよう
- 2 試験が始まったら、まず最初に確実に受験番号を書こう  
入試の第一問目は、受験番号を書くこと！
- 3 すべての問題を大まかに見てみよう  
問題の難易度を見分けながら、時間配分を考えよう。
- 4 問題文をしっかり読もう
  - ① 何を、どこに、どのように、答えるのか
  - ② 正しいものを選ぶのか、正しくないものを選ぶのか
  - ③ 記号で答えるのか、言葉で書くのか、抜き出して答えるのか
  - ④ 指示されたもの以外、必要のないことは書かない
- 5 正確に、丁寧に書く
  - ① 文字や記号、仮名遣いや送り仮名は、正確、丁寧に！
  - ② 誤字脱字や薄い字、小さい字にならないように。
- 6 難問にこだわらない  
難しい問題にこだわる必要はありません。（「自分が難しいと思うものは、他の受験生も難しいと思っている」と考えましょう）時間の浪費は、合格点に関わります。  
確実に得点できるところから解いていきましょう。
- 7 易しい問題も油断大敵！  
「簡単！」と思った問題ほど、注意して解こう。
- 8 最後まであきらめない  
最後まで粘り強く考え続けられる人には、運が向いてきます。
- 9 答えを書き終わったら、必ず確認する  
きちんと問題を読み取って解答用紙を埋めたのか、再確認を。
- 10 終了のチャイム、監督者の指示があるまで気を抜かない  
「やめ」の合図まで、粘り抜くこと。回収まで、気を抜かずに。

これまでの自分の努力を信じ、精一杯頑張ってきてください。